

鳥獣の被害対策

カキ園の草刈り時期が鳥獣被害に影響？ ～ 営農管理面(草刈り管理手法)から冬期の果樹園の餌コントロールに挑戦～

研究の背景・目的

島根半島の湖北地域などのカキ園で、シカ・イノシシによる被害が増加しています。近年果樹園において冬期に発生している緑草類が餌となって、シカ・イノシシなどの獣類を誘引している可能性が高いことが分かってきました。そこで、果樹園における鳥獣類の利用実態を明らかにし、冬期に獣類の餌資源(緑草類)を少なくできる草刈り管理手法を確立します。

研究方法

- (1)カキ園に、自動撮影カメラを設置して、夜間の鳥獣類の利用実態を明らかにします。
- (2)同園場内を、下草刈りの方法別(時期、回数)に ~ の5区画に分けて、冬期の緑草の種類や量を調査します。
5月下旬、8月上旬に草刈りを行った区。
5月下旬、8月上旬、8月下旬に草刈りを行った区。
5月下旬、8月上旬、9月下旬に草刈りを行った区。
5月下旬、8月上旬、10月下旬に草刈りを行った区。
無処理:草刈りを行わない区。
- (3)果樹農家で下草管理と冬期の緑草状況の実態を調査します。



園場内に設置した自動撮影カメラ



カキ園に出没したイノシシ

研究状況

- (1)平成19年度は、試験園場内で獣類を75回撮影し、イノシシ、タヌキ、キツネをそれぞれ46、12、16回撮影しました。また、月別の撮影(利用)頻度は9、10月が多く、11、12月は少ないことが分かりました(図1)。
- (2)同園場内で冬期(1月・3月)の草本類の量等を調査した結果、最終の草刈りを9月下旬に実施すると、冬期に大量の緑草類を発生させる可能性が高いことが分かりました(図2)。

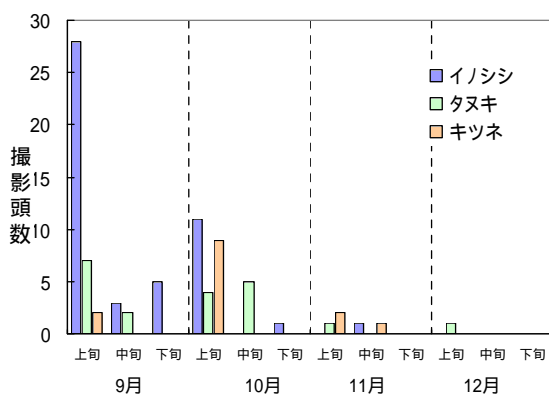


図1 月別の獣類の撮影頭数

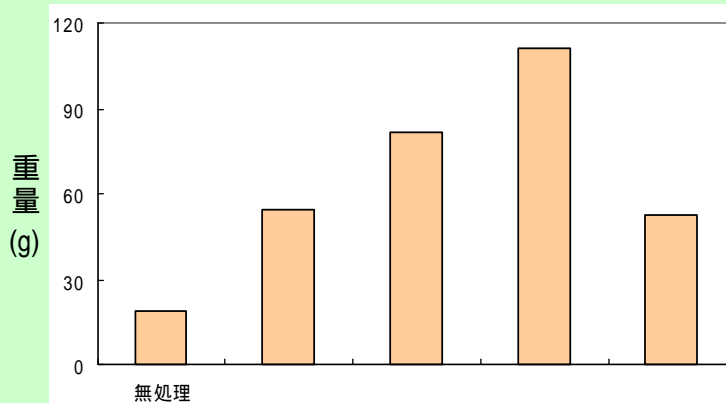


図2 冬期の草本類の重量(乾燥重)

研究成果の活用

島根県内の果樹農家へ冬期に獣類(シカ、イノシシなど)を果樹園に誘引しない草刈り手法を普及します。この研究は近畿中国四国農業研究センター、島根県農業技術センターとの共同研究で実施しています。



MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

所属グループ 鳥獣対策グループ

担当研究者 竹下 幸広(たけした ゆきひろ)

問い合わせ先 0854-76-3818

E-mail chusankan@pref.shimane.lg.jp

試験研究課題名:営農管理的アプローチによる鳥獣害防止技術の開発 (研究期間:H19~21)